

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所〔担当：福間・澤村〕

TEL：0853-22-6772

FAX：0853-24-3342

令和8年度 病害虫発生予察情報 注意報第1号

令和8年6月26日

島 根 県

イチゴうどんこ病の発生量が過去10年で最も多く、今後、育苗ほから本ほへの感染拡大が懸念されるため、注意報を発表します。

現地では発生状況を把握し、薬剤散布など防除対策の徹底をお願いします。

記

- 1 作物名 イチゴ
- 2 病害虫名 うどんこ病
- 3 発生地域 県内全域
- 4 発生量 多い

5 注意報発表の根拠

- 1) 6月下旬の巡回調査（8ほ場調査）では、発生ほ場率100%（平年45.9%）、発病株率30.8%（平年12.2%）、発病葉率33.3%（平年9.5%）と、発生量は過去10年で最も多い（図1）。

- 2) 中国地方の1か月予報（6月27日～7月26日、広島地方気象台6月25日発表）によると、向こう1か月の降水量は平年に比べて少ない確率が40%、気温が平年に比べて高い確率が50%であり、本病の発生を助長する要因とはならない。

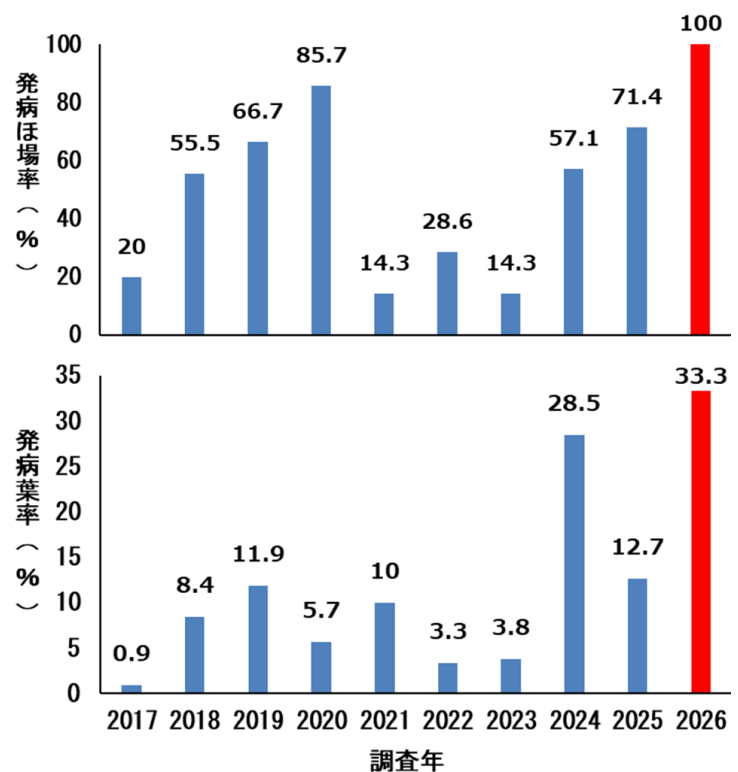


図1 6月下旬におけるイチゴうどんこ病の発生状況
（上：発生ほ場率、下：発病葉率）

6 防除対策及び防除上の注意事項

- 1) 伝染源となる発病葉（図2）は、分生子が飛散しないよう注意し、直ちに除去して園外へ持ち出し適切に処分する。
- 2) 本病は乾燥条件でも感染するが、多湿条件では更に感染を助長するため、苗の間隔を拡げ、風通しを良くする。
- 3) 窒素肥料の多用を避け、適切な肥培管理を行う。

- 4) 夏の高温期には分生子が認められなくなるが、本菌は苗に残存している。本ばに発病苗を持ち込まないために育苗期の薬剤散布を徹底する。
- 5) 薬剤の使用に当たっては、ラベルを確認し、使用回数、濃度、使用量及び使用時期を遵守する。同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- 6) 最新の農薬登録情報は、農林水産省農薬登録情報提供システムで確認する。
(URL <https://pesticide.maff.go.jp/>)



図2 葉裏での発病

(赤枠内に分生子形成)



図3 ランナーでの発病

(赤枠内に分生子形成)

島根県病害虫防除所

(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科)

〒693-0035 出雲市芦渡町 2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/